

議事録 概要
第7回 市民と市長の対話ひろば ～もりりんと語ろう、宝塚市の未来～ テーマ：建て替えがせまる、宝塚市立病院の未来について
日時：令和7年8月23日（土） 午前10時～正午 場所：東公民館 ホール 参加者：56名 市出席者：森市長、企画経営部市立病院経営改革担当－羽田部長、君田次長 市立病院経営統括部－岡田部長
《市長のテーマ説明》 1 はじめに ・今回のテーマは「市立病院とその周辺機能のあり方」。 ・医師である立場から、医療・福祉に深い関心がある。 2 宝塚市立病院の現状と課題 ・見た目はきれいだが 築41年、老朽化が進行。 ・31の診療科があり、国が定める「総合病院」としての要件を満たしている。 ・「二次救急」病院として、救急車をまず受け入れる役割を担う。 ・兵庫県指定のがん拠点病院でもあり、がん診療の優秀な医師が揃っている。 ・医療の質は高く、「市民に育てられた病院」という自負もある。 ・赤字経営の課題があったが、近年改善傾向で、近隣の市立病院と比較した場合、宝塚市立病院の経営状況は悪くはない。 ・令和6年度の決算見込み（正式発表は市議会の審議を経た秋予定）。総収益は約135億円で総支出は約137億円。 ・「民間でやったほうがいいのか？」という声があるが、役割や安定性などを考慮すると、単純な民営化は難しい。 3 医療・福祉・介護・保健の連携の必要性 ・高齢化社会において、医療・福祉・介護・保健の連携が必須。 ・核となるのは市が保有する医療施設との連携。さらに、民間施設や市外との連携も視野に。 4 周辺施設との連携 ・国民健康保険診療所 西谷地域の医療過疎地にある市運営の診療所。西谷唯一の医療機関で遠隔診療の活用を視野に入れている。 ・健康センター

健診や歯科などの公衆衛生活動を担当、「治療の医療」とは異なる。より医療との連携や予防医療を意識した再編が必要。

- ・ステップハウス

高齢者の退院後の中間施設としての活用が重要。病気が治ってもすぐに在宅復帰できるとは限らない。

- ・子ども発達支援センター

自身も医師として勤務経験あり。障害のある子どもへの療育・支援を行う施設（元は肢体不自由児施設）。発達障害などの 現代的な課題への対応が求められており、医療的ケア児への支援なども含め、医療・福祉・教育との連携が必要。

5 市立病院の建て替え計画

- ・現在地での建て替えを基本方針とし、新病院は第一駐車場の敷地に建設予定。
- ・既存棟は配管などの老朽化が深刻で、活用は難しいが、一部（がんセンターなど）は継続使用を検討。
- ・設計、デザインはこれから本格的に開始し、7年スパンの長期事業になる見込み。
- ・連携施設（診療所、健康センター、ステップハウス、子ども発達支援センター）との役割分担を明確にしながら、病院の機能を最適化。
- ・建築だけでなく、中身（機能）の再設計も重要。そのため今、「物理的配置」「役割」「導線」などを再検討中。

《対話》

1 参加者【病院の問題解消、建て替え地変更などについて】

- ・市立病院の問題は建て替えで解消されるか。（集約化、医療従事者確保等）
- ・建て替え地変更の可能性はあるのか。末広公園に建築したほうが市役所との連携もスムーズでは。そうすれば、病院跡地に企業誘致できるのではないか。

➡ 市長

- ・医師不足と人口減少で集約化は必要だが、大規模病院には管理の難しさもある。また、在宅医療や遠隔医療の進展で病院機能が変化する可能性もある。
- ・現在の位置が災害拠点病院として有利と考えている。

2 参加者【建て替えではなく補修という選択について】

- ・現病院の建て替えに違和感がある。建物自体は綺麗で、配管だけの問題であれば、補修で済むのではないか。改修による継続利用を提案したい。
- ・いただいた寄付金を病院建設でなく運用すれば、毎年多額の収入が得られる可能性がある。
- ・物価高騰や在宅医療の普及で、今は大規模建て替えを行うにはリスクがある。

➡ 市長

- ・建て替えは医療機能を止めずに行える。改修の場合、一時的に病院機能を停止せざるを得ず、運営損失（数十億円規模）や雇用への影響が大きい。
- ・外観は綺麗だが、内部のインフラは大幅に劣化しており、使い続けるには大規模な修繕が必要。
- ・中間病床など、将来的な医療システムに合わせた施設機能を設計できるのが建て替えの利点。

3 参加者【医療連携、旧病院跡地の活用について】

- ・友人が救急搬送されたが、市立病院には受け入れられなかった。公立病院は救急や小児など不採算医療を担うべき。
- ・大病院化より、専門病院と連携した横のネットワーク構築が有効。
- ・旧病院跡地を回復期病床として活用してはどうか。また、母子保健・発達支援の拠点整備も提案したい。

➡ 市長

- ・消防と病院の連携は進んでおり、今後も強化予定。
- ・回復期病床は既に検討中。運営形態は今後考えていく。
- ・母子保健は進めていきたい。子育て、教育と連携し充実していきたい。

4 参加者【ヘリポートについて】

- ・救急患者のためにもドクターヘリが着陸できるのか。

➡ 市長

- ・ドクターヘリや救急ヘリは運用が難しく、高額な費用がかかる。
- ・病院の屋上にヘリポートを作るのは高額であり、効率的な運用が求められる。既存の高速道路を活用すれば、地域間の迅速な移動が可能。

5 参加者【病院へのアクセス改善について】

- ・住んでいる地域では阪急バスが2時間に1本に減便され、交通の不便さを感じており、将来、高齢で市民病院に自力で行けなくなることへの不安がある。
- ・昨年のコミュニティバス実証実験の結果が思わしくなかったが、やはりアクセス改善が必要ではないか。病院収入の観点からも、患者の足の確保は重要。

➡ 市長

- ・市立病院への路線バスは、バス会社の配慮もあり多方面から運行しているが、便数・時間帯がバラバラであり使いにくいのが現状と認識している。
- ・病院アクセスの改善は、市民にとっても、病院にとっても非常に重要な課題。利便性を向上させるために相談しながら整理や見直しを考えていきたい。

6 参加者【医療機器について】

- ・市民病院で使われている医療機器が最先端に近いと感じているが、新たに病院が建て替えられる際の医療機器についてどうなるのか。また、最先端の医療機器が導入されるのか知りたい。

➡ 市長

- ・医療機器については、更新や導入を進める予定だが、最先端であることと最高グレードは異なるため、コストパフォーマンスを考慮する。
- ・最先端の技術が進歩しているので、それに応じた機器更新は行われるが、すべて最高レベルにすることはコストが増加するため、賢く選定していく。
- ・現在の機器は使えるものはそのまま使い、更新が必要なものは更新する予定。

7 参加者【医療、福祉、保健と音楽や文化、芸術との関わりについて】

- ・医療、福祉、保健と、音楽や文化、芸術などがどのように相互に関連し、融合するのかを聞きたい。

➡ 市長

- ・宝塚市は医療の街というよりも文化と技術の街としての特徴があり、医療福祉と文化芸術を融合させることが重要だと考えている。
- ・医療福祉介護保健の目的は単に寿命を延ばすことではなく、充実した生きがいを持って暮らすことに重点を置いている。
- ・文化や芸術は、健康や生きがいを育む要素として大切であり、病院や施設が提供するものの以外に、例えば庭園や音楽が精神的な充実感を与える場になり得るため、文化や芸術も重要な要素だと考えている。
- ・文化的な生活は日本国憲法にも基本的人権として書かれているほど重要なものであり、健康や充実した生き方に大きな影響を与えていると考えている。

8 参加者【精神科の創設、障害者へのサポートについて】

- ・住んでいる地域では坂が多く、交通や病院へのアクセスに関する問題がある。
- ・精神科の相談員が非常に少なく、宝塚で対応してもらうことが難しい。相談員の育成が必要。特に精神的な障害を持つ人々への支援が重要。精神科の創設を。

➡ 市長

- ・新しいモビリティサービスなどがでてきているが、地域によっては難しい現状もある。
- ・精神科の問題については、全く違う世界の話となる精神科病院となってしまうため設立などは難しい。心療内科を充実させる方向で取り組む。
- ・個別のケースをわかっていないため何ともいえないが、障害福祉に関しては、宝塚市は比較的充実しているが、サービスの偏り（凸凹）があるため、さらに整備する必要がある。

ると認識している。

- ・ 障害者支援については、フレミラを福祉の拠点として、うまくサポートしていければと考える。

9 参加者【建設地、寄付の活用について】

- ・ 建設について時間がかかりすぎる。国などの協力を得て、上池を整備し、早急に新しい病院を建設し、市民のために効率的で安価な施設を提供すべき。
- ・ 宝塚市は、いくつかの大きな寄付に助けられている。

➡ 市長

- ・ 複数の土地について検討を行い、今の土地での建築案となった。
- ・ 寄付は非常にありがたく、今後その支援をうまく活用しながら進めていくつもり。

10 参加者【子どもの医療支援、病院の待機環境改善について】

- ・ 小さな子どもを持つ家庭として、宝塚市の子ども医療政策が気になる。
- ・ 他市にないような「オリジナルの施策」があれば知りたい。
- ・ 授乳やオムツ替えのために、外来で長時間じっと待つのが難しいため、個人病院のように「呼び出しベル」や「タブレット通知」などの導入を希望。
- ・ がん患者の方などにも「呼び出しベル」が大きな心理的支えになると考える。

➡ 市長

- ・ 給付型ではなく、「質の向上」が大事だと考えている。無償化も大事であるが、今あるものの質を高めていきたい。
- ・ 教育・公園・保育施設など子育て環境全体を丁寧に改善していきたい。
- ・ 呼び出しベルについては、コストと利便性を両立しながら、利用者に優しい形を検討したい。

11 参加者【呼び出しベル、病院スタッフの接遇について】

- ・ 先ほどの参加者の質問について、呼び出しベルの導入は今すぐにでも検討可能では？ 建て替えに7年もかかるのであれば、それまでの間の対応が必要。
- ・ 医療の質だけでなく、働く人の親切さが病院の印象を左右する。看護学校での教育も含め、接遇の質向上をお願いしたい。

➡ 市長

- ・ 呼び出しベルは、確かに今できることであると認識しているが、コストの問題もあり検討となる。
- ・ 働きやすさや余裕が、人への親切さに繋がる。
- ・ 看護学校は赤字だが、人材確保において大きな価値があるため、財政とのバランスを取りながら、人を大切にする体制を構築したい。

《まとめ》

市長

- ・本日も多くのご意見をいただき、感謝している。自分自身も学びがあった。
- ・全ての要望にすぐ応えるのは難しいが、真摯に受け止め、担当部署と共有する。
- ・市立病院をより良い形にし、宝塚市全体を住みやすいまちにしていきたい。
- ・今後も対話を続けながら市政を進めていくので、引き続きご協力をお願いしたい。